

No. 1085

ロッテ、日本一に

— 日本シリーズ —

ロッテ3勝2敗で迎えた日本シリーズ第6戦は10月23日、中日球場で行なわれました。2回表ロッテの攻撃、バッター山崎、ピッチャー松本。山崎はレフト線へ2塁打。続く5番弘田がタイムリー・ヒット、ロッテ早くもリードを奪います。しかし中日も必死の反撃、3回裏2番谷木のヒットを足場に一死満塁とロッテの先発村田におそいかります。バッターは6番木俣、木俣の大きなレフト・フライで谷木が返り同点。その後両チーム1点ずつ加点、2対2のままシリーズ初の延長戦に入りました。10回の表、代打土肥の三塁ゴロを大島がエラー、4番山崎の送りバンドで代走の飯塚は3塁へ。弘田は5回からリリーフした星野仙のストレートをうまくとらえ、決勝の2塁打。好投を続ける村田は中日最後のバッター・井上を三振に打ち取り、ゲームセット。宙に舞う金田監督は日本一になったよろこびを「ほんとうにうれしい。選手の一人一人を抱きしめてやりたい。」

終りなき苦しみの日々

— サリドマイド訴訟和解 —

中迫空海さん12才、愛知県豊橋市立磯辺小学校6年。昭和37年10月14日サリドマイド奇形児として誕生。今、彼女に苦悩のかげりは見えない。しかし、ここへたどりつくまでに親と子の十二年にも及ぶ苦悩の才月があった。

昭和38年3月 空海さんの父・中迫茂楠さんは全国のサリドマイド奇形児を持つ親に話し合いの会を持つとと呼びかけた。そして、大日本製薬に抗議、補償を要求。しかし会社は、「国に製造許可を申請し受理されたのだから、会社到手落ちはない」と答えた。その後、大日本製薬株式会社と厚生省を相手に訴訟がおこされた。

昭和40年11月 西ドイツの人類遺伝学者レンツ博士の診断を受け、サリドマイドによる奇形の確証をえる。しかし、手術の結果は思わしくなかった。それから10年親と子が訴訟や治療にかけまわった距離は8万キロにも及ぶという。

一つぶの薬が造られて15年、五百人とも千人ともいわれる子供たちの命がその薬のためにゆがめられた。昭和49年10月13日、サリドマイド訴訟は和解の時を迎えた。涙を流して謝罪する大日本製薬社長、なぜその良心をサリドマイド製造以前に持ちえなかったか。和解確認書の調印式は終わった。しかし、和解によって誰が救われ何が解決したというのか。空海ちゃんは走り続ける、終りのない苦しみの日々の中を。